



いとうみどり
伊藤翠さん
明石市立沢池小学校教諭

多可町出身。平成23(2011)年、神戸親和女子大学卒業後、大学院修士課程障害科学コースに入学。昨年3月に修了し、現任校に着任。今年度は3年生を担当している。



ほりしろうぞう
堀祥三さん
兵庫教育大学附属小学校教諭

宮崎県出身。平成18(2006)年、学校教育学部生活・健康系コースを卒業後、兵庫県内の公立小・中学校に勤務。25(2013)年、現任校に着任。4年生を担当している。



→ 友達の発表を聞いて、同じ意見ならチョキ、違うならグー、付け足したいならパーで意思表示します



→ 体育の授業での「こま、子どもたちと一緒にリレー、トベースポールの攻めや守りの方法を考えました」

大学院での学びが 授業実践に役立っています

夢 だった小学校教員になってもうすぐ1年。大学院では、発達障害のある子どもが通常学級で楽しく学習できる授業の方法について研究してきました。

大学院での学びを生かし、教材や発問、指示などを工夫するよう心掛けています。「今日はゲームをするよ。先生問題☆三つね！」などと言いながら、授業の導入で動機付けを図ると、子どもはノリノリで参加できます。

また、ゼミで療育活動を行っていたので、学級の気になる子どもとの関わりに抵抗を感じることが、ほとんどありません。学校現場には、発達障害や多動性障害の子どもがたくさんいます。教員の関わり方で子ども同士の関わり方も変わってきます。

兵教生の皆さんには、在学中に専門的な知識をしっかりと身に付けてほしいと思います。必ず現場で役立ちます。知識と実践が結び付くことで、授業や学級経営は楽しくなります。

これまでの多くの支えに感謝し さらなる研さんを

元 来、不器用で人を育てる才能などなかった私ですが、今まで教員を務めてこられたのは勤務先で出会った方々のおかげです。苦しい局面では必ず支えてくださる方がいました。中学校で部活動の顧問をしていて、なかなか思うような結果を出せずに落ち込んでいた時、「わたしはできる」という詩を贈っていただき、奮起したことを覚えてます。

「環境が人を育てる」。現任校の先輩教員から頂いたこの言葉は、教員としての力不足を強く感じている私にとって大変心に残りました。授業や学級経営など未熟な部分は多々ありますが、子どもと対話しながら学びを深めておられる先輩方に追い付けるよう、研さんを続けていきたいです。

在学生の皆さんも人生の中で壁にぶつかる時が来るでしょう。しかし、支えてくれる方が必ずいます。出会いを大切に、諦めずに挑戦し続けてほしいと思います。

▶ 同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

応募方法など詳細はHyokyo-netをご覧ください

大学院同窓会会員と大学教員との共同研究の申請

大学院修了生と大学教員とが共同で取り組む研究の中から、特に学校現場の課題解決や大学の実践的な教育研究の進展に役立つものを選び、研究経費の一部を補助します。平成25(2013)年度は9件を採択しました。

◎申請締め切り 4月30日⑩まで

教育実践研究活動等に係る表彰者の推薦

大学院同窓会では教育実践研究に顕著な成果を挙げた修了生を表彰しています。今年度も受賞にふさわしい修了生の推薦を受け付けています。今年8月の同窓会山口大会(山口市)で表彰式を行い、学長・同窓会長連名の表彰状を授与します。

◎推薦締め切り 3月31日⑩まで